



Title	The Regulation of RNA Splicing and the Role of Mer3 Helicase in Meiotic Recombination
Author(s)	中川, 拓郎
Citation	大阪大学, 1998, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.11501/3143777
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	中 川 拓 郎
博士の専攻分野の名称	博 士 (理 学)
学 位 記 番 号	第 1 3 6 6 3 号
学 位 授 与 年 月 日	平成10年 3 月 25 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第4条第1項該当 理学研究科生理学専攻
学 位 論 文 名	The Regulation of RNA Splicing and the Role of Mer3 Helicase in Meiotic Recombination (RNA スプライシングと Mer3 ヘリカーゼによる減数分裂期組換え の制御)
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 小川 英行 (副査) 教 授 杉野 明雄 教 授 荒木 弘之 教 授 品川日出夫

論 文 内 容 の 要 旨

RNAスプライシングによる減数分裂期組換えの制御

減数分裂期組換えは染色体 DNA の二重鎖切断 (DSB) により開始する。私は、RNA 結合タンパクをコードする出芽酵母 *MRE2* が DSB 形成に必須な *MER2* の減数分裂期特異的 RNA スプライシングに必要であることを明らかにした。ところが、*MER2* イントロンを除去した *cMER2* 遺伝子を導入した *mre2* Δ *cMER2* 株は遺伝子変換型組換え (noncrossover) は正常だが交叉型組換え (crossover) に欠損を持つことが分かった。

Crossover の分子機構を知る為に、*mre2* Δ *cMER2* 株の組換え欠損を抑制するサプレッサーのスクリーニングを行い、*MER3* 遺伝子の同定に成功した。*MER3* RNA のスプライシングにも *MRE2* が必要であった。*MER2*、*MER3* イントロンは共にコンセンサス配列と異なる 5' スプライス部位を持つ。よって、そのスプライシングに *MRE2* が必要だと考えられる。

Mer3 ヘリカーゼの crossover に於ける役割

MER3 は、その塩基配列からヘリカーゼと Zn フィンガーのモチーフを持つ蛋白をコードする。*mer3* Δ 株を作製し解析を行った結果、noncrossover が増加し、逆に、crossover は減少することが分かった。よって、*MER3* は2つの組換えのバランスを制御し、特に crossover に必要だと考えられる。また、*MER3* は染色体上に於ける crossover の分布制御にも必要であった。更に、*mer3* Δ 株では第一減数分裂で相同染色体が不分離を起こすことが観察された。不分離を起こした染色体間では crossover が見られなかった。

DNA レベルで組換え現象を調べたところ、*mer3* Δ 株では DSB の蓄積が見られ、その修復過程に欠損を持つことが示された。また、ヘテロ二重鎖 DNA の形成を調べた結果、*mer3* Δ 株では DSB 部位から離れた位置でのヘテロ二重鎖形成が野生株に比べ大きく減少していた。これらは、DNA 鎖交換反応に *MER3* が働くことを示唆する。

間接蛍光抗体法により Rad51, Dmc1 (RecA ホモログ) の染色体上での局在を調べた結果、*mer3* Δ 株では Rad51, Dmc1 が点状に局在した状態で細胞周期が停止していた。また、抗 Mer3 抗体を用いた実験から、Mer3 は相同染色体が対合した所に点状に局在することが観察された。

以上より、Mer3 ヘリカーゼは crossover の正常な頻度と分布に必要であり、相同染色体の正確な分配に寄与する

と考えられる。また、Mer3がRad51, Dmcl などと共に DNA 鎖交換反応に働く可能性が挙げられる。

論文審査の結果の要旨

酵母の減数分裂期組換えに必要な遺伝子 *MRE2* が, *MER2* 遺伝子の転写産物のスプライシングを介して, その開始, 二重鎖切断に関与すること, また, 新しく発見した遺伝子, *MER3* の転写産物のスプライシングにも関与して, 乗換え型と遺伝子交換型組換え体の比率を制御することも明らかにした。組換えのそれぞれ重要なステップを, スプライシングを介して制御する遺伝子の解明と減数分裂期組換えの後期過程の解析はユニークであり, 博士(理学)の学位論文として十分価値のあるものと認める。